第13回 弓浜助け合いネットワーク

「我が事・丸ごと」の地域づくり　現状と課題

【主催】米子市（米子市弓浜地域包括支援センター）、弓浜助け合いネットワーク実行委員会　【共催】社会福祉法人真誠会、NPO法人がいなネット　【後援】米子市社会福祉協議会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第13回弓浜助け合いネットワークの会」が昨年12月3日、同市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれた。「我が事・丸ごとの地域づくり～現状と課題」をテーマに、参加した地域住民ら約400人が、基調講演や意見交換会を通して、ますます重要になる地域での助け合いについて理解を深めた。要旨を紹介する。

主催あいさつ

米子市長
伊木 隆司

多くの皆さまに参加いただいている「弓浜助け合いネットワークの会」は、昨年で13回目となりました。このような取り組みを続けていくことで、支え合いの気持ちが高まり、具体的な地域づくりにつながってきていると感じております。

超高齢社会に対応するために行政はもちろん、地域に関わる多くの皆さまが「我が事」として社会参画し、世代や分野を超えて「丸ごと」つながることが大切であり、地域や家庭が抱える課題を支援できる体制づくりに取り組むことが重要だと考えます。

「弓浜助け合いネットワークの会」が今後も継続し、さらに充実していくことを願っております。

基調講演

人生100年時代に向かっての人生設計の作り直し

医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長　小田　貢

人生100年時代の到来は目前です。どんな将来が待っているのか、どう迎えたらいいのかを皆さんと一緒に考えていこうと思います。

2025年には、800万人ともいわれる団塊の世代が後期高齢者になり、国民の4人に1人が75歳以上の超高齢社会に突入するといわれます。これが「2025年問題」です。何も手を打たなければ医療や介護、年金など社会保障費が立ち行かなくなります。そこで国は2000年に介護保険制度を導入し、3年ごとに計画を見直して25年に対応しようとしています。

地域完結型社会へ

高齢者が住み慣れた地域に住み続け、在宅で最期を迎える「地域完結型」の社会を目指して、地域包括ケアシステムの構築が進められています。地域完結型の社会は、中学校区などの小さな単位で基本的な医療や福祉などのサービスを提供する社会です。

私たちは13年前から、この弓浜助け合いネットワークの会を開いて情報を共有し、助け合いの意識を高めてきました。「助け合い」と「ネットワーク」が、地域完結型社会の重要なキーワードになるのです。

昔は人生50年、60年という時代で、定年退職後は悠々と過ごし、誰にも迷惑をかけずに最期を迎えるのが一般的でした。ところが人生90年時代となり、引退してから最期を迎えるまでに20年、30年とかかります。

16年の平均寿命は男性が81歳、女性が87歳、自分のことを自分でできる健康寿命は男性72歳、女性74歳でした。50年には、平均寿命が男性84歳、女性90歳と推計されています。平均寿命に比例して健康寿命は延びません。その分、介護が必要な状態が長くなります。誰かのお世話にならなくては生きられないのです。

超高齢社会生きる 助け合いと連携重要

幸せな老後のために

私たちは、生を受けた時から死が定められています。仏教には、人として免れない四つの苦しみとして「生老病死（しょうろうびょうし）」という言葉があります。現代は認知症の「認」の文字を入れた「生老病認死」でしょう。

人生長ければ全て良しではなく、苦しみも多くなります。常に人のためにも働けるような気構えで、生きがいを持って生きることが幸せな老後につながります。

人生100歳と考えたときに頭に浮かぶのは、恩師の故日野原重明先生です。実際に105歳まで生きられ、「死を見つめることは生を直視し、今日を精いっぱい生きることにつながる」と身をもって示されました。

日野原先生の最後の言葉は「キープ・オン・ゴーイング（前に進み続けよう）」。私たちも前に進み続けましょう。

助け合う地域づくりについて考える参加者

〈意見交換会〉――地域のさまざまな取り組みについて――

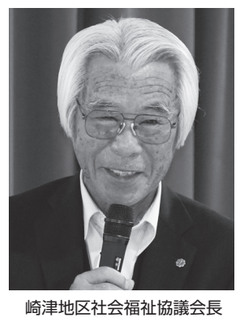
弓浜地域の五つの団体が、地域の課題や取り組み事例、今後の展望などを発表した。

大篠津御崎自治会長
岡田 隆 氏

取り戻したい地域の絆

昨年9月に大篠津ケア会議を立ち上げ、計3回の会議を開きました。ケア会議の概要や介護保険について学んだほか、地区の世帯と人口の実態を把握、自治会の世帯台帳を更新して取り組む内容を確認しました。

在宅福祉委員の協力により、高齢者に届ける弁当給食と一緒に、困りごとがあればお知らせくださいというチラシを配布することができました。今後は地域の皆で集まり、話をすることで、もっと地域の情報を集めようと思っています。地域でお互いに助け合う昔のような関係を取り戻したいと思います。



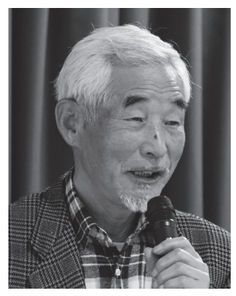
崎津地区社会福祉協議会長
矢倉検治 氏

地域ケア会議の結成へ

崎津地区地域ケア会議発足に向け、昨年から二つの取り組みに重点を置いています。一つは認知症サポーター養成講座です。地域の認知症の人に対応できるように率先して講座を開きました。

もう一つは、地域の高齢者や保育園児らが交流できる崎津夢農園の開園です。サツマイモや夏野菜を作付けし、10月には収穫祭をしました。

二つの取り組みは、地域のさまざまな団体に広がりをみせはじめています。今後はさらに範囲を広げて、18年度の地域ケア会議の結成を目指して、取り組みたいと思います。



和田地区自治連合会長
田辺忠雄 氏

地域活動に積極的参加

和田地区の高齢者はさまざまな活動に積極的に参加しています。いきいきサロンやマツ守り隊、ふる里まつり、綿づくりプロジェクト、介護支援ボランティアなどです。

ケア会議はこれまで15回開き、高齢者の地域での見守りや、買い物困難者や要支援者の対応などに取り組んでいます。地域の人に活動を知らせる「ケア会議新聞」も発行しています。防災会も結成され、地域の防災や要支援者のマップ作製も動きだしています。

より多くの住民参加を得て、安心安全なまちづくりを続けていこうと思います。

河崎御建自治会副会長
井原純一 氏

校区に広がる支援の輪

「一人になっても安心して暮らせるまちづくり」を合言葉に、2015年に立ち上げた御建地域ケア会議の取り組みを河崎校区の他の自治会にも提案したところ、16年に河崎地域ケア会議が発足しました。これまで3回の会議で、各自治会の進捗（しんちょく）状況や問題点などを話し合いました。

地域全体で独居や障害者を含めた高齢者世帯の見守りと支援のために、自治会の緊急連絡網を整備し、民生委員と連携して助け合い見守りマップの作製を進めています。助け合いの輪が広がるように地域全体で取り組んでいく覚悟です。

小規模多機能型
居宅介護「浜の絆」管理者
柿本和也 氏

地域の拠点目指して

「浜の絆」は昨年8月に開所しました。高齢者支援だけでなく、地域住民が集い、相談できる場所を目指しています。小規模多機能型居宅介護事業所として、「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを定額料金で提供しており、「まちの保健室」の役割も担っています。

毎月地域の皆さまが集える行事を催しています。職員を地域の皆さまに知ってもらう機会にもなっています。

浜の絆が地域の資源となり、地域の助け合いの中心になれるよう、地域の皆さまと一緒に歩みたいと思います。

司会進行

米子市弓浜地域包括支援センター長
石原 慎吾

高齢社会 認知症社会 に貢献する
医療法人 社会福祉法人 真誠会
米子市河崎580　TEL 0859-24-5666　http://www.hospitown.or.jp　院長　小田　貢（認知症サポート医）
認知症のご相談
リハビリのご相談
生活支援のご相談
福祉用具のご相談
を承ります。

総合建設業 株式会社 高野組（コウノグミ）
KOUNO
代表取締役社長　高力　久美
〒689-2501　東伯郡琴浦町赤碕 817-7
TEL.0858-55-0921　FAX.0858-55-7286
http://www.kounogumi.co.jp/

ニーズに応え、地域社会に貢献する
Rinx 総合建設業 株式会社 リンクス
代表取締役　池田　幸仁
〒684-0062　境港市蓮池町 50-1
TEL.0859-42-5335　FAX.0859-42-5336
リンクス　境港市　検索